



海外便り—インド

長瀬産業 (NAGASE INDIA)

SEAJ Journal をご覧の皆様、こんにちは。

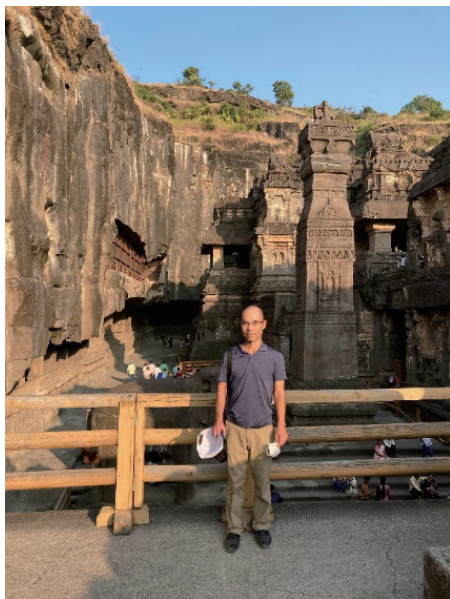
2020年1月から長瀬産業株式会社より NAGASE INDIA に赴任している横山と申します。ご存知のように、インドの GDP は昨年世界第5位、前年度比 +8.2%の成長を遂げ、今年も6%以上の成長が見込まれています。国内の自動車販売台数は500万台を超え、世界第3位の市場となっています。更に昨年は G20が開催され、「Global South」のリーダーとして世界中から注目されています。その一方で、各方面から「もっとやれ」「何かやれ」と要求され、どうすればいいのかわからないのか、何をすればいいのかわからないのか、誰とやればいいのか と悩まれている方も多いはず。約5年の駐在の中で私が肌で感じている日本や他のアジア諸国との違いなどをお伝えすることで、読者の皆様に少しでもインドをイメージしていただければ幸いです。

<文化・生活面での違い>

皆様は「インド」や「インド人」と言うとき何を思い浮かべるでしょうか。カレー、タージ・マハル、ターバン、カースト制度、世界一の人口、ガンジス川での沐浴 などでしょうか。多様性の国と言われる通り、言葉一つ取ってもヒンディー語の他に憲法で公認されている州の言葉が21も有るので、日本との違いを一言で説明するのは不可能ですが、

ご参考までに私のある日の出来事をご紹介します。

- ・リビングの LED 照明が切れたため業者を手配したが、約束したにも関わらずその日に来ない。
 - ・次の日業者に文句を言ったらスタッフが夕方には来たものの、「はしごは有るか？」と聞かれたので「(当然) 無い」と言ったところ、はしごを取って来ると言ったまま帰って来ない。
 - ・また次の日業者に文句を言ったところ、同じスタッフが今度ははしごを持って来たものの、「替えの電球を持ってくるか？」と聞かれたので「(当然) 無い」と言ったところ、電球を買って来ると言ったまま帰って来ない。
 - ・更にまた次の日業者に文句を言ったところ、今度は別のスタッフが来て「はしごは有るか？」と聞く……まるでドリフのコントのようなことが、日常生活で起こります。ダメだこりゃ！
- その後、私は Amazon で My はしごを買いました。
- そんな大小様々なストレスに晒されながらも、我々駐在員はカレーとタンドリチキンを食して日々頑張っています。日本人には理解し難いインド人のメンタリティの根源に、輪廻転生とジュガードが有ると感じています。
- ✓輪廻転生=インド哲学の根本教義、宗教ごとに輪廻の特徴が異なる



エローラ



アジャンタ

ヒンドゥー教の場合、現世で「正しい行い」をすれば、来世で上位カーストになれる

今世はこのカーストを全うしよう！⇒生きている間に現状を変えようと思わない

✓ジュガード＝斬新な工夫による問題解決・応急措置

物資が少ない環境の中で、あるものでどうにかしようとあれこれ創意工夫をすること

良く言えば、臨機応変、論理的思考 ⇒アジャイル開発向き（ソフトウェア等）

悪く言えば、適当、その場しのぎ ⇒コスパ重視（必要以上の性能、品質を求めない）

まだまだ経験の浅い私ですが、インドビジネスを行う上で大事なことは、日本や他のアジア諸国での成功パターンがそのまま通じることは稀だということを理解し、何事にも粘り強く取り組み、それでいて厳格さと寛容さの適度なバランスを保つことだと考えています。



ハリドワール / ヒンドゥー教の聖地の一つ

<産業構造の違い>

日本を初め東アジア・東南アジア諸国は、安い労働力を活用して労働集約型産業を育て、輸出で外貨を稼ぎ、それにより国が豊かになってく過程で第三次産業が成長するという歴史を辿って来ました。一方、インドは様々な要因（保護主義、カースト制度、2000年問題 など）により第一次産業から一足飛びで第三次産業が成長したことで、GDPに占める第三次産業の割合は55%（2023年度）も占めているのに対して、製造業はたったの14%しか有りません。昨年度のインドの貿易赤字2,400億ドル（輸出4,370億ドル、輸入6,770億ドル）に対して、サービス黒字1,450億ドル（輸出3,200億ドル、輸入1,750億ドル）と海外出稼ぎインド人による送金1,100億ドルとなっており、経常収支では均衡が保たれている状況です。このことから、他のアジア諸国とインド



リシケシュ / ヨガの聖地
(ジョン・レノンが瞑想したと言われる9番のアシュラム)



タージ・マハル



ダージリン

との産業構造の違いが見て取れます。

製造業比率が低いことは、サプライチェーンやインフラの脆弱性にも繋がっています。水と電気については、日常生活でさほど不便を感じることは無いものの、半導体製造となると品質や安定供給の求められる次元が違うので、まだまだ課題は大きいと思います。あとインフラコストは決して安くはないと感じています。私はムンバイで単身暮らしをしていますが、電気代は月に約1万ルピー（1万8千円）掛かっており、ガソリン代は100ルピー超/ℓ（180円）です。

<セミコン・インド>

「セミコン・インド2024」が9月11日～13日の日程で、グレート・ノイダ（インド北部のデリー首都圏（NCR））で開催され、24か国・地域から250社超が参加しました。SEMI主催によるインド開催は今回が初めて。前日の9月10日にはNagase India 主催のセミナーを開催させていただき、JETRO India 様より「インド概況と日系企業動向」、Mizuho Bank 様より「インドにおける半導体・電気電子部品の市場動向について」というテーマでご講演いただきました。

セミコンでは装置・材料メーカーや商社など、日系企業から約20社の出展が有りました。インド半導体産業に関しては様々な情報や憶測が交錯する中で、参加各社様と貴重な情報交換ができました。

<最後に>

インドがこれほどまでに世界から注目されるようになったのは、コロナ禍が明けてからのほんの2～3年のことだと思いますが、劇的変化が起こっているまさにこのタイミングに駐在していることは、本当に幸運なことだと思っています。皆様には活気あふれるインドに是非お越しいただき、日々の変化と成長を肌で感じて、何かしらの気付きになることを願ってやみません。

この投稿が半導体業界でご活躍されている皆様のご参考になれば幸いです。

(NAGASE INDIA PVT. LTD. ^{よこやま としき} 横山 俊樹)

【開催概要】Nagase India Semicon Seminar 2024

- 概要 : インド半導体産業に関するセミナーおよび懇談会
- 主催 : NAGASE INDIA PVT.LTD.
- 日程 : 2024年9月10日18:30-21:00
- 場所 : Aloft Hotel Aerocity 5B, IGI T3 Road, Aerocity, New Delhi, Delhi 110037
- 参加人数 : 52名(社外32名 + Nagase Group20名)

- 講師 : 鈴木 隆史 様 JETROインド代表 >> 副首相アテンドが入り丸山氏に交更
湯崎 徹 様 みずほ銀行 国際戦略情報部 Vice President



▲講師 鈴木 隆史 様 JETROインド代表



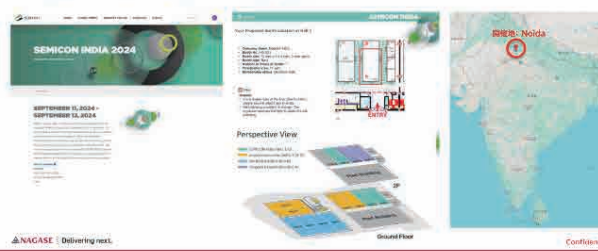
▲セミナー会場: Aloft Hotel Aerocity



▲セミナー会場

【概要】Semicon India 2024

- Semicon India 2024
- 展示内容 : 半導体業界を中心に、ディスプレイ/自動車等、電子業界に集約された展示会
- 日程 : 2024年9月11日～13日
- 場所 : Noida (インド北部デリー近郊、デリーから車で1時間程度)
- 出展企業 : 266社 SEMICON India 2024: Exhibitors



▲NAGASE | Delivering next.

Confidential 16

Semicon India | NAGASEブース



▲NAGASE | Delivering next.



Confidential 16